

観音 立日

平成9年8月
第27号

発集発行

広島県安芸郡府中町
茂陰2丁目2-8-10
真言宗 正観寺
小出真行



西国観音霊場巡拝

『質問箱』

うかうかと時を過すのも

一路向上するのも

皆心のあり方に依る

宗秘論

お布施というと、普通、お寺さんに出す「謝礼」と思われがちです。しかし仏教でいう布施とは自分の持てるものを、返礼を期待することなく、できるだけ他人に施しをすることなのです。

その意味の布施で法施・無畏施・財施の三種があります。

法施は、御経を説いて聞かせること。

無畏施は、安心を施すこと。

財施が、お坊さんなどに金品をさし上げることです。

仏教の教えをいただくことへの感謝の心のあらわれなのです。

よく「お布施はどれほど包んだらよいですか？」と聞く人があります。もちろん定まった額などありません。ただ、お布施は感謝の心を捧げるものですから、惜しみながら出すようでは意味が成り立ちません。

ですから、おのずから世の上での標準的な額を心得ておくべきでしょう。分からない時は葬儀屋さんに相談するか誰かに問いかけるのも一つの方法だと思います。如何でしょうか。

『仏教のスーパースターは？』



行基



空海

日本全国のお寺の案内を見ますと、開山（そのお寺を建立した人）とか仏像の作者として、聖徳太子・行基・空海（弘法大師）の三人の名前がひんばんに出てきます。

聖徳太子は、お坊さんではありませんが、仏教を本格的にわが国にとり入れた聖人としてあがめられています。行基は、奈良の大仏さまの建設資金を集める際の最大の功労者でしたし、各地で貧しい人々の救済活動をし、橋をかけるなどの土木事業をおこなった最初の人として「菩薩」とあがめられています。尚、正観寺も、この行基の開山とされ、本寺の聖観世音菩薩はもちろん行基の作とされています。

よく御存知のお大師さんも全国を遊行中民衆救済のための様々な土木事業を指導され絶大な人気を集めています。もちろん事実を伝えられるものは、ほとんどないでしょうが、もとののはっきりしていないものには、かたっぱしからこの三人に結びつけられた可能性もあります。要するにそれだけこの三人は大変人気があったということのようです。

『供花（くげ）』

仏さまにさし上げるお花は、どんな花であってもよいというものではありません。花にも負けぬ美しい心をもって、仏さまの周辺を荘厳するのが供花の意味あいですから、悪臭のある花、有毒植物などは避けるのが当然でしょう。



う。

何よりも、供花は正面を礼拝する側に向けておそなえたいします。それは、仏さまに花をお供えすることは、仏さまの莊嚴であると同時に、ささげた者が、仏さまから、お莊嚴をいただくことだからです。仏さまに美しい花をさし上げようというその心はそのまま仏さまの心として、さし上げる者にはたらしめるのです。供花の花がちらを向いているのは、その意味をあらわしています。

『あなたは「悪因悪果」

「善因善果」？』

袖ふれ合うも他生の縁、といって互いに知らぬ人同志が道ですれ違ふとき、袖がふれ合う程度の人間関係でも深い因縁があります。ましてや夫婦、友人、知人などはもつと深い結びつきがあると考えられます。そのような人間関係の中でわたしたちは生活しているのです。

しかし生活はしていますが、生者必滅といつて、この世に生を受けた以上、必ず死を迎えなければなりません。この生者必滅の心をめ

ぐらせば誰しも死後のことが気になり、問題になってきます。でもこれは因果応報、自業自得といって、自分で蒔いた種は自分で刈り取る。蒔かぬ種は生えぬともいい。自分が生きてきたことに対して必ず自分が報いを受けてきたことに対して必ず自分が報いを受けなければならぬのです。おうおうにして因果応報、自業自得というのと、どうしても悪いほうにばかり使われがちですが、「悪因果」だけでなく「善因果」もあるのです。

現世は過去世（前世）の結果であり、現世が来世の原因となつて来世の結果が生じてくるといふ考え方から、恩を受けた人々、縁ある人々ならば誰でも死後浄土へ行ってもらいたいと願うのは当然のこと、ここから「追善供養」の考え方が生まれてくるのです。

臨死体験をした人は「川を渡ろうとしたときに叫ばれたので帰ってきたら生き返った」と答えている人がほとんどだそうです。さてこれが「三途の川」なのだろうか？ともあれ生と死の境界線ということでしょうが、それを越えると肉体生命は終わり、心・霊・魂の世界へ入って行くのです。

その日が来るまで「善因果」を心がけましょう。

『観音（かんのん）さまは男か女か？』

「慈母観音」といわれる観音さまを安置しているお寺はたくさんあります。また、「観音さまのような人だ」という場合には、女の人をさすことに決まっています。さらに、十六世紀から十七世紀にかけてわが国のキリスト教徒たちは、イエス・キリストの母親マリアを観音と同一視し、「摩利耶観音」（まりやかんのん）などと称していました。

このように、すくなくともわが国では、むかしから、観音さまに女性のイメージをかぶせてきました。じっさい、わが国で作られた観音像は、女の人を思わせるような、丸みのあるふっくらしたものが多いようです。

では、観音さまは女なのでしょうか。この問いにたいしては、はなはだ歯ギレがよくなるのですが、そうでないとも、あるいは、そうであるとも、どちらでもたいしてまちがいはない、という答になります。

まず、「観音」の原語ですが、これは、前の項ですこしくわしくふれましたように、「アヴァローキテーシュヴァラ」、あるいは

「アヴァローキタスヴァラ」です。サンスクリット語では、名詞（および形容詞）は、はつきりと男性、中性、女性の区別がなされていて、それぞれに応じて変化のしかたがちがいますが、「観音」の原語は、かならず男性名詞として登場してきます。このかぎりではないと、観音さまは男だということになります。げんに、よく観音像をみますと、たいてい、鼻の下に、ドジョウがくねったようなヒゲがついています。

しかし、そうはいいまして、観音さまは女でもありうるのです。といいますのは、観音さまは、この世のあらゆる生きとし生けるものを救うために、その場その時に応じて、さまざまな姿に変身（化身）するとされているからです。

江戸時代になってとくに流行したものに「観音霊場三十三カ所巡り」というものがあります。「西国三十三カ所」などがなかでも有名ですが、この「三十三」というのは、じつは漢訳の「観音経」に説かれている、観音さまの三十三の化身にちなんだものなのです。

この三十三の化身のなかには、女の人もいくつかはいます。したがって、観音さまは、ある場合には、女の人であるといえる

わけです。(もつとも、このことは、「漢訳の観音経」によれば)、ということでありまして、サンスクリット語原典ではそのかぎりではありませんが。)

ちなみに、観音さまは、三十三の姿に化身するといふ考へのほかに、地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天道といふ六道にある生きとし生けるものを救うために、それぞれに応じた六つの姿をとるとも考えられています。これを「六観音」といいますが、知っておいて便利だと思しますので、つぎにあげておきましょう。

一、聖観音。「正観音」とも。六観音のなかでは、もつともふつうの姿をしており、地獄道が活動場所。

二、千手観音。手が千本もあるといふキバツな姿。もちろん、千本もの手で、かたつばしから救いとることをあらわしているわけです。餓鬼道が活動場所。俗語で「しらみ」のことを千手観音といいますが、昭和三十年あたりより以後に生まれた人は、まずご存知ないでしょう。

三、馬頭観音。頭の上にさらに馬の頭をのせた観音さまというわけで、千手観音よりも、見ようによってはグロテスク。いまでは、

競馬ぐるいの人たちに人気がありますが、もともとは、畜生道が活動場所。

四、十一面観音。顔が十一もあって、やはりかなりグロテスク。これだけ顔がありますと、作りがいもあるというわけでしょうか、わが国の観音像のなかでは、十一面観音に傑作が多いようです。修羅道が活動場所。

五、不空罽索観音。「罽索」というのは「繩」のこと、「不空」というのは「むなしからず」のことで、「もっている繩がむなしくない」、つまり、「失敗する子となく、かならず繩で人をつかまえることができる」の意。銭形平次みたいなものですが、もちろん、人を救うことにぜったい失敗しないことを意味しているわけです。人間道が活動場所。なお、目が三つあったりする、準提(じゅんてい、じゅんてい)観音をここにあてる宗派もあります。

六、如意輪観音。「如意」とは、願いことをすべてかなえてくれる宝石(如意宝珠、にいほうじゆ)のこと、「輪」とは、仏教の教えを、車輪のようなものに刃をつけた古代インドの武器になぞらえたもの(法輪、ほくりん)のこと。この二つを持っていることで、この名称があるわけです。天道が活動場所。

「募集」

この度、本堂・檀信徒会館建立に伴い、新たに「のぼり(天竺木綿)」を二種類作ることに致しました。

南無大師遍照金剛

南無聖観世音菩薩

奉納をご希望の方は申し込んで下さい。

金額 一枚(ポール付) 三千五百円也

尚、稲荷神社前に鳥居を、二十本製作中ですのであわせて御案内致します。

金額 一本 五万円也

※ 本堂・檀信徒会館の使用料は後日、役員会で決定致します。

「お知らせ」

平成十年三月八日(日)

落慶法要(稚児練供養)

正観寺本堂並びに檀信徒会館稚児の申し込みについては、後日御案内致します。